



2017年は、国内象牙市場閉鎖に向けて様々な動きがありました。

世界最大の象牙消費国である中国は、12月末をもって象牙の商業目的の加工・販売を全面禁止し、象牙市場の閉鎖を実行しました。今後、この禁止措置の厳格な執行が期待されています。減少してきたとはいえ象牙需要がまだまだ大きいのに、国土が広いなど、規制遵守の徹底には様々な困難があるでしょう。しかし、中国政府の市場閉鎖の意思は非常に強固で、世界中のNGOも需要減少キャンペーンや違法取引情報の提供など、中国政府の市場閉鎖努力を全面的にバックアップしていく構えです。

イギリスでは、象牙市場閉鎖に向けて激しい論争が展開されてきましたが、伝統的に力のあるアンティーク業界の反対を退けて、ごく狭い例外を除く象牙販売禁止措置の導入が間もなく決定される見通しです（2018年2月段階）。EUは28もの国の連合体であるため時間がかかっていますが、市場閉鎖含みの厳しい象牙取引規制に関するパブリックコメントを実施するなど、進捗が見られます。

その一方、今や世界最大の「合法」象牙市場となった日本は、日本の象牙市場は密輸にも違法取引にも関係していない、日本はワシントン条約で採択された象牙市場閉鎖決議の対象ではないなどと手前勝手な主張を相変わらず繰り返しています。

しかし、日本の開き直りとは裏腹に、2017年11月に東京港で象牙を船に持ち込もうとした中国人船員が逮捕され、今年1月には、「全日本象牙卸売センター」の役員が象牙の密輸出を共謀していた容疑で逮捕されました。この業者はハンコをはじめ各種の象牙製品を製造している、「日本象牙美術工芸組合連合会」の主要メンバーでした。この事件には「孤狼」と呼ばれる中国の犯罪集団も関与していると言われ、日本市場が、どのように組織的な密輸出の拠点となっているかが解明されつつあります。もはや言い訳無用、日本政府は潔く象牙市場閉鎖を決断すべきです。

目次:

巻頭言 … 1

ゾウの保全をめぐる動き 2016 … 2

2016年度 事業の概要と収支報告 … 3

2016年度 事業報告（生息地支援）… 4・5

2016年度 事業報告（普及啓発イベント）… 6

2017年 事業計画と予算 … 7

事務局日誌 / イベント・カレンダー /

JTEFの活動をご支援ください！ … 8

ゾウの現状 (2016-2017)

●アフリカゾウの生息状況

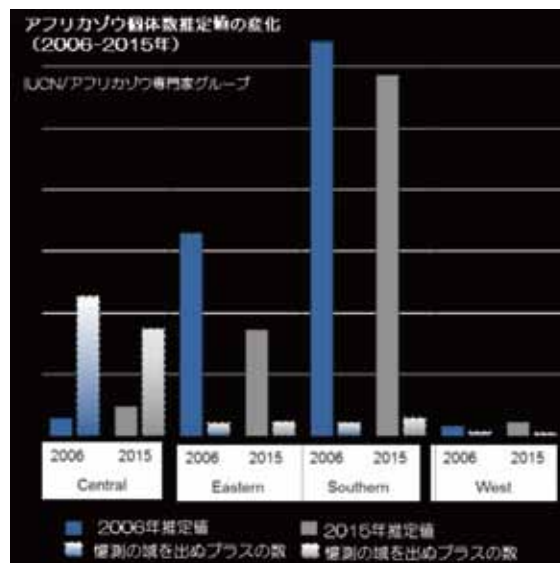
IUCN アフリカゾウ専門家グループによれば、アフリカ大陸全体での個体数は415,428 (± 20,111) 頭と推定されており(以下の表を参照)、この数以外に、信頼できる調査がなされていない(つまり憶測の域を出ない)数として117,127 から135,384頭という数字が報告されている。

アフリカゾウは過去25年間の中で最悪の減少傾向を示しており、特にこの10年間の密猟の影響が主な減少要因となっている。2015年時点の推定数は2006年時点のそれより93,000 頭少ないだけだが、2015年の推定数のうち18,000頭は過去調査されていなかった個体群の数なので、実質的な減少数は111,000頭以上となる。

アフリカゾウの個体数推定 (2015年時点)

中央アフリカ	24,119
東アフリカ	86,373
南部アフリカ	293,447
西アフリカ	11,489
合計	415,428

「アフリカゾウ生息状況報告2016」(IUCN アフリカゾウ専門家グループ)による。



●アジアゾウの生息状況

現在のアジアゾウの推定個体数は、44,281-49,731 頭とされている(以下の表を参照)。この推定値は各国の行政機関やIUCN アジアゾウ専門家グループの情報を寄せ集めたものである。アジアゾウ専門家グループによれば、科学的な精査がなされているのはこれらの数値の6%。80%以上は憶測の域を出ず、10-13%は疑わしい数値だと考えられている。アジアゾウの個体数の正確な把握は非常に遅れている。

アジアゾウの個体数推定 (2015年時点)

インド	27,312*	(大きな個体群については、サンプルの個体群密度を生息域全体に当てはめて推定し、分散している小さなグループや個体については総数をカウントした。)
中国	219 - 242	(Zhang et al 2015)
マレーシア(半島)	1,223 - 1,463	(1,564 - 1,677)(Salman et al 2011)
マレーシア(サバ州)	2,040	タマン・ネガラ (436-915) & エンダウ・ロンピン (113) は、糞のカウント・個体識別に基づく密度推定による。
タイ	最低3,124	(1,184 - 3,654)
カンボジア	249 - 362	(Alfred et al (2010) - 糞カウント)
ミャンマー	2,000 - 4,000	** DNA/自動撮影カメラによる識別に基づく推定と直接カウントによる。
ベトナム	84 - 105	DNA/自動撮影カメラによる識別に基づく推定
バングラデシュ	270 - 327	足跡調査に基づく、グループの直接目視
ネパール	107 - 145	(定住個体: 197-227, 季節移動個体 83-100)
ラオス	データなし	ライン・トランセクトおよび糞崩壊度の測定による推定
インドネシア	1,720	バルディヤ国立公園(80)は、DNA個体識別に基づく推定
インドネシア(ボルネオ)	60 - 100	(約 600 - 800 (Khamkhoun et. al. 2011)という報告もある。)
スリランカ	5,879	ランブン、テッソニロ、リアウの個体群は、糞/DNA識別に基づく推定による。
ブータン	250 - 500	アチェ - 500 (直接カウント & 方計区推定)、ベンクル - 50 (直接カウント)、ジャンビ - 159 (FZS)、リアウ - 159 (FKGi)
合計(最小 - 最大)	44,281 - 49,731	水場におけるカウント/直接カウント
		513 (生息地/森林被覆からの2010年推定)。現在の推定は500以上

* インド政府の2017年ゾウ個体数推定より

** タイ及びその他の国々のIUCN アジアゾウ専門家グループメンバーによる2017年の推定



[事業の概要]

▶ 生息地支援

【北東インド・アジアゾウ保全プロジェクト】

人件費を除く支援額その他経費（予算額）：

2,967,194円（3,100,000円）

現地パートナー：インド野生生物トラスト（WTI）

【目的】

カルピ・アングロン自治県内のゾウの生息地確保・密猟防止

【概要】

・「ダイグルン・カラパハル・ゾウ・コリドー確保プロジェクト」

コリドー内やその周縁部に暮らしコリドー内の森に依存している地域住民の、森林に与える悪影響・ゾウとのトラブルを防止するため、村の自主移転の支援、コミュニティの生活改善、ゾウに対する報復を防止するための諸活動を行なう。

・「水田地帯における人とゾウとのトラブル防止プロジェクト」

ゾウがコリドーから外れて水田へ侵入することを電気柵やゾウの嫌う柑橘類の生け垣等で防止し、村人によるゾウに対する報復行動を防ぐための諸活動を行う。

・移動獣医サービス

密猟者による攻撃、村人とのトラブル、さまざまな事故に対する野生動物の救護を行う。

・その他の活動

ゾウやトラをはじめとする野生動物とその生息地の状況を調査する。

▶ 政策提言

【象牙市場閉鎖プロジェクト】

人件費を除く支援額その他経費（予算額）：

3,056,746円（4,080,000円）

直轄事業

【目的】

JTEFは、米国のNGO Environmental Investigation Agency (EIA)の調査に専門技術的助言を行い、EIAをはじめとする海外のNGOとともに、世界中の国内象牙市場の閉鎖を関係機関に提言、それがゾウの保全のために必要であることを日本の人々に訴える。

【概要】

- ・次の事項について、関係機関に政策提言を行なう。
- 象牙の輸入禁止継続・国内取引禁止に向けた規制の強化

＊プロジェクトの一部は、公益財団法人緑の地球防衛基金から助成を得て実施しています。

▶ 保全教育・普及・・・6、8頁参照

▶ チャリティー・イベントの開催・・・6、8頁参照

▶ 会報発行・・・年次報告書（2017年2月）、保護基金通信（2017年6月、10月）、メール・マガジン（5回）、ウェブサイト運営

[収支報告]

＊ゾウ保護基金（JTEF2016年度）2016年11月1日～2017年10月31日

収入

単位：円

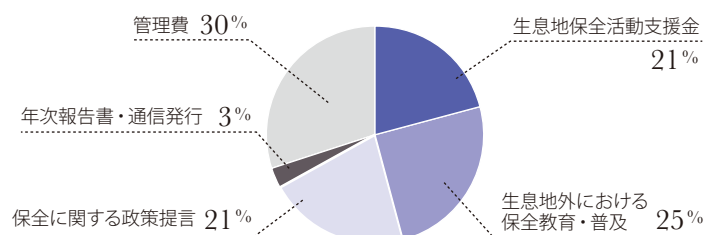
正会員年会費	96,000
寄附金	5,767,322
助成金	8,873,160
受取利息・為替差益	148
合計	14,736,630

支出

単位：円

生息地保全活動支援金	2,967,194
生息地外における保全教育・普及	3,656,679
保全に関する政策提言	3,056,746
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	364,235
管理費（人件費・水道光熱費・消耗品費、その他）	4,316,250
合計	14,361,104

※共通の収入は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの収支状況を考慮して適正に配分しています。



【北東インド・アジアゾウ保全プロジェクト】

◎ ダイグルン・カラパハル・ゾウ・コリドー確保のための活動

▶ 新（移転後）ラム・テラン村のくらしは、順調

ゾウ・コリドー内にあったラム・テラン村 (Ram Terang) は、2015年にコリドーの外側へ移転し、新しい生活が始まっています。JTEFは11月に現地を視察しました。

移転前は電気のない村でしたが、新しい村には近く電気がひかれることになり、村人が喜んでくれています。

以前2014年に訪ねた際、唯一建設が終わっていた村の集会所には、見事なゾウのレリーフがあしらわれていました（写真左）。掘り抜き井戸（写真中）は地盤が固いため施工が大変だったそうですが、水がとてもおいしいそうです。かわいらしい教会も小さな高台に建てられていました（写真右）



養魚場には、近くの川で採ってきた魚が放され、村の日常のタンパク源になっています（写真左）。村で現金収入を得るためのトレーニングも始まり、機織り機と織り糸・綿花を支給し、手織り製品を生産できるようにすなわけて近いうちに近くの市場で売る計画もあります（写真右）。



▶ 新（移転後）ラム・テラン村の周辺にかんきつ類の生垣（エコ・バリアー）を植栽

このゾウの侵入防止のための「エコ・バリアー」は2016年のモンスーンにも耐えたので、今後成長して、ゾウが村の敷地に入って畑の作物を食べたり、建物を壊すことを防ぐ効果を発揮するようになるでしょう。



▶ コリドー内の村の跡は植生がみるみる回復。ゾウの利用も頻繁

村の建物が取り壊された後にはゾウの糞がみられました（写真上）。コリドーを横切る道路（未舗装）を通り抜けるゾウの姿も見られます（下）。



カルビ・アングロン ゾウ保全プロジェクトの現地責任者のディリップ（写真右）が、村の移転のこれまでを振り返りました。カルビ族でない（ディオリ族）彼が最初は1人でム・テランを訪ね、徐々に村人たちに移転を説得していったのですが、途中で当初の移転候補先が気に入らないということにもなり、移転場所が決まってからも一時期作業がとん挫したこともありました。そのときは村人から非難もされ、石をなげられたことすらあったそうです。7年間以上かけた努力を実らせたことに心から敬意を表したいと思います。



◎ 水田地帯でのゾウと人のトラブル防止対策

▶ 電気柵の新調と太陽電池の設置

ゾウ侵入防止のための電気柵は、2010 年以来、水田地帯のチョーキホラ Chokihola の 9 村の水田と森の境界に沿って設置されています。延長距離は 7km です。

電柵は非常に効果を上げていて、ゾウによる被害が激減、耕作面積が増えてとてもありがたいとのことでした。写真はクダン・テロン村の電柵設置場所です。以前ゾウが田んぼに入り、耕作ができなかったところでしたが（写真左）、今はしっかり収穫できているといいます。夜間の監視塔も見えますが（写真中）、電柵のおかげで監視も楽になったようです。



写真（右）中央やや左に立つ樹の右側にゾウ道が見えます。ここまではゾウが出てきますが、その先は電柵に阻まれて水田には入って来られません。電柵がうまく機能していることが視覚的にわかります。



◎ 負傷したゾウなどのレスキュー

昨年 8 月 22 日に開設された「移動獣医レスキュー・センター」を、前カルビ・アングロン自治県議長ジョイラム・エングレンさん（写真①）とともに視察しました。

写真は爬虫類用のケージで、1 側面（写真②）はガラス製になっていて観察しやすくなっています。

写真③④は、有蹄類（ホッグジカなど）用のケージで木製です。写真⑤は、動物に注射するなど治療するときに入れるケージ。床を上下させて、中の動物が身動きしにくくできます。

2016 年 10 月から 12 月の 3 か月で 12 件のレスキューがありました。

10 月 9 日と 10 日には、別の場所で相次いで負傷したオスゾウが見つかり、治療して元の場所にリリースされました。最初のゾウは、おそらく村人の報復行動として槍でつかれていました（写真⑥）。2 頭目は原因はわかりませんが、骨折していました（写真⑦）。



◎ 象牙市場閉鎖プロジェクト

JTEF は、米国の NGO Environmental Investigation Agency (EIA) の調査に専門技術的助言を行い、EIA をはじめとする海外の NGO とともに、世界中の国内象牙市場の閉鎖を関係機関に提言、それがゾウの保全のために必要であることを日本人に訴えています。

2017 年 4 月に Environmental Investigation Agency (EIA) が来日し、JTEF 事務局で記者会見を開催、日本は国内象牙市場閉鎖を求める条約決議を遵守すべきだと訴えました。翌日は EIA とともに、外務省・経産省・環境省と、国内象牙市場閉鎖について意見交換を行いました。また 5 月には、参議院環境委員会における「種の保存法改正法案」の審議に際し、事務局長坂元が参考人として招致され、国内象牙市場閉鎖決議の遵守と、そのために必要な法改正について、厳しい意見を述べました。また通年で、2017 年度に公表する報告書の準備やそのベースとなる様々なデータ収集、調査を行いました。



イベント報告

2016年度事業報告

2017.2/11

やまねこマラソン大会

西表島

今年も「マラソンは飛ばしても車はゆっくりね」のスローガンで、チームの皆さんがTシャツを着て、完走しました。



2017.4/15

イリオモテヤマネコの日 記念シンポジウム開催

西表島

ヤマネコの日記念シンポジウム「これからのヤマネコ保護と島の暮らし」開催。50名以上の参加をいただき、2018年にも登録される予定の世界自然遺産とオーバーユースについてパネルディスカッションを行いました。



2017.4/18,19

アースデイ東京2017

代々木公園

象牙国内市場閉鎖に向けた世界各国の動きなどのパネル展示を行いながら、子供向けのワークショップで、動物のマグネット作り。ボランティアも参加者も大勢で賑わいました。



2017.5/27

JTEFを支えるチャリティーパーティー2017

「JTEFの活動を支えるチャリティー実行委員会」によりチャリティーパーティー開催。イチャリバーズの楽しいライブで大盛り上がりでした。



2017.7/26,27

西表島教員研修会開催

西表島

西表島小中学校の先生方の研修会を竹富町教育委員会と共催で実施しました。午前中はフィールドワーク、午後は先生方が授業案を作成し発表をしてくださいました。



2017.7/29

世界トラの日

動物園のボランティアスタッフとJTEFがトラのクイズとプレゼントを配布しながら、3500頭台のトラを守ろう！というメッセージを多くの人々に。

2017.9/21

白浜小学校ヤマネコ授業

白浜小学校ヤマネコ授業でフン分析のお手伝いをしてきました。生徒の皆さんは「臭い〜！」と叫びながらも、真面目にフンをほぐしていました。冬のフンからはネズミ、鳥の足、夏のフンからは甲虫、カエルの骨、イネ科の草本などが出てきました。ライオンやイエネコもお腹の調子が悪い時は草を食べるよと詳しい生徒も。



2017.8/25~9/3

田中豊美チャリティー展覧会

JTEFの賛同者、動物生態画家の田中豊美画伯。50年に渡り愛情を絵に表しながらいつまでもトラが野生で生きていける事を祈って、チャリティー展覧会を初めてJTEFのオフィスで開催しました。



2017.9/23,24

ナマステ・インドア2017

いい天気で、多くの方からエールをいただきました！子供達と折紙のゾウを作りながら、楽しくイベントでインドの野生動物をお祝いました！



2017.10/9

ゾウとサイを守るグローバルマーチ東京

NPO法人アフリカゾウの涙主催で、上野公園に200人が集結。1時間かけて園内を一周してゾウやサイの保護を呼びかけました。参加者の中にはお子さんも多く、風船を手に持ち、歌を歌いながら明るく楽しい雰囲気のマーチとなりました。



2017.10/15,16

ディワリ・イン・ヨコハマ2017

Happy Diwali! 横浜の山下公園にてインドの光のお祭り。イベント中雨は降ったり止んだり、そして急に寒くなったから長袖Tシャツとパーカーが完売。インドにはカレーや Bollywood ダンスばかりでなく、素晴らしい野生の世界もあることをアピール。

2017.10/28,29

ヤマネコ祭2017

動物園にいるツシマヤマネコつながりでイリオモテヤマネコの現状を伝えました。

□ 日本の象牙市場の閉鎖

・国内象牙市場閉鎖に向けて、最新の市場の動向・問題点を調査・報告します。今年度は、象牙取引・国内象牙市場の問題について議論される重要な国際会議が目白押しとなっているので（2017年11月CITES常設委員会：ジュネーブ、2018年野生生物違法取引サミット：ロンドン、2018年10月CITES常設委員会：ソチ）、そこで調査結果を公表し、日本政府が国内象牙市場閉鎖の政策決定をするよう働きかけを行います。

また、国内象牙市場でいまだに象牙を販売している事業者が、楽天、イオンに続いて販売停止の方向に進むよう、広報活動を行います。



□ 北東インド・ゾウ保全プロジェクト

・インドのゾウについては、カルビ・アングロン自治県で、引き続き人とゾウのトラブル対策として、森と農地の間に設置した電気柵・エコバリアーの改修、傷ついたゾウなどのレスキュー活動等を行います。



ゾウ保護基金 (JTEF2017年度予算) 2017年11月1日～2018年10月31日

予算：収入

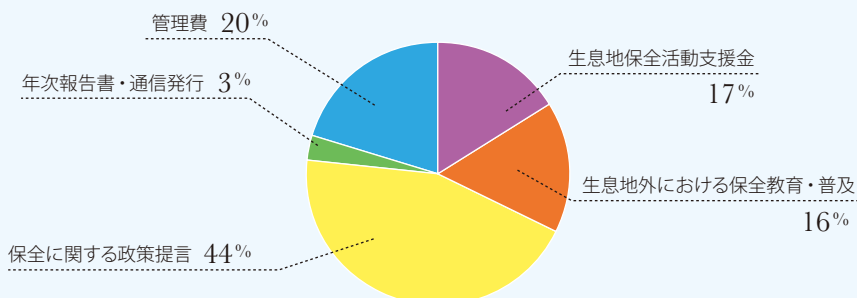
単位：円

正会員年会費	0
寄附金	3,390,000
助成金	11,240,000
合計	14,630,000

予算：支出

単位：円

生息地保全活動支援金	2,300,000
生息地外における保全教育・普及	2,279,500
保全に関する政策提言	6,225,000
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	463,300
管理費（人件費・水道光熱費・消耗品費、その他）	2,813,300
合計	14,081,100



※ 共通の収入・支出は、それぞれの収支予算を考慮して適正に配分しています。

November 2016

- 11.6 石垣島やいびとう大会参加 (石垣島)
- 11.7 上原小学校 授業 (西表島)
- 11.18 保全教育研究会 (東京・事務局)
- 11.21 西表島白浜小 授業 (西表島)
- 11.22 西表島 船浦中学 授業 (西表島)

December

- 12.8 トラ大使第3回ワークショップ (上野動物園)

January 2017

- 1.21 理事会、総会、交流会 (東京・事務局)
- 1.27 保全教育研究会 (東京・事務局)

February

- 2.11 やまねこマラソン大会 (西表島)

March

- 3.22 2016年度 イリオモテヤマネコ保護増殖事業分科会 (那覇市)

April

- 4.1 しらうめ春祭り (梅が丘 白梅作業所)
- 4.15 シンポジウム「これからのヤマネコ保護と島のくらし」(西表島)

- 4.22,23 アースデイ東京2017 (東京・代々木公園)
- 4.23 八重山郷友会連合会 (王子「北とびあ」)
- 4.27 EIA 来日、記者会見開催 (東京・事務局)
- 4.28 EIAとともに外務省・経産省・環境省と国内象牙市場閉鎖について意見交換 (東京)

May

- 5.18 参議院環境委員会「種の保存法改正法案」審議参考人招致 (東京・参議院)
- 5.27 JTFFの活動を支えるチャリティー・パーティー (東京)
- 5.28 竹富島郷友会でヤマネコ保護についてお話 (王子「北とびあ」)

June

- 6.19 理事会 (東京・事務局)
- 6.25 トラ大使リーフレット配布 (上野動物園)

July

- 7.26,27 西表教師研修会 (西表島)
- 7.29 世界トラの日 ブース出展 (上野動物園)

August

- 8.12 世界ゾウの日 ブース出展 (上野動物園)

- 8.15 トラ大使リーフレット配布 (上野動物園)
- 8.24 世界自然遺産上原地区住民説明会に参加 (西表島)
- 8.25~9.3 田中豊美さんトラ絵画展 (東京・事務局)

September

- 9.10 東京西表島郷友会 (東京・赤羽会館)
- 9.11.20.21 「西表島の適正利用とエコツーリズム推進体制に向けた検討会」と区域別作業部会に参加 (西表島)
- 9.17 しかあざ会 (東京・赤羽会館)
- 9.23,24 ナマステ・インディア2017 (東京・代々木公園)
- 9.25 IUCNに対して「イリオモテヤマネコの保全からみた西表島の推薦に対する意見」(英文35頁)を提出

October

- 10.9 ゴウとサイを守るグローバルマーチに参加 (上野公園)
- 10.14,15 ディワリ・イン・ヨコハマ2017 (横浜 山下公園)
- 10.19 IUCN現地調査における地域との意見交換会に参加 (西表島)
- 10.22 トラ大使リーフレット配布 (上野動物園)
- 10.24 理事会 (東京・事務局)
- 10.28,29 ヤマネコ祭2017 (井の頭自然文化園(動物園))

Media

「JTFFとそのパートナーの活動／コメントが掲載されました」

- ・2017年1月18日_東京新聞:象牙取扱業登録制に悪質業者排除へ監視強化
- ・3月1日_朝日新聞:象牙売買、違反で懲役刑も業者、登録制に法改正案を閣議決定
- ・3月1日_時事通信:会社員ら不起訴処分=無登録象牙をネット売買—東京地検
- ・3月1日_日本経済新聞:象牙売買の男性ら不起訴 東京地検
- ・3月27日_八重山日報:スピード違反減少 島民、ヤマネコ意識か
- ・4月19日_八重山毎日新聞:希少種との共存探る イリオモテヤマネコの日 記念シンポ 住民や研究者ら50人参加
- ・4月28日_朝日新聞:象牙市場の閉鎖を求める 国際NGOが声明
- ・5月7日_朝日新聞:もっと教えて! ドラえもん／ヤマネコ日本に2種類いるね 年々数が減少 保護活動が進むよ
- ・5月14日_琉球新報:イリオモテヤマネコシンポ「緩衝地も重要生息地」竹富保護と共存策議論
- ・5月20日_朝日新聞:(@ケニア)象牙の密猟と戦う人々
- ・5月22日_しんぶん赤旗:象牙取引の規制が必要 参考人が指摘 日本に道義的な責任 武田議員
- ・7月6日_共同通信:楽天市場、象牙取引を禁止 環境団体「影響大」と歓迎
- ・7月30日_琉球新報:安定した環境保って ヤマネコ保護講演会
- ・7月31日_八重山毎日新聞:大原中の同窓会設立 本島在住卒業生で組織
- ・8月3日_朝日新聞:楽天、象牙のネット取引を全面禁止へ 8月中旬にも
- ・9月2日_朝日新聞:イオン、象牙製品の取り扱い全廃へ 20年3月までに
- ・9月6日_共同通信:イオンモール象牙禁止へ 民間が選好、政府は容認 政府の登録推進に批判も
- ・9月30日_八重山日報:見学ツアー規制訴え ヤマネコの人馴れ懸念 IUCNに意見書
- ・10月8日_八重山日報:トラ・ゾウ保護基金 環境省に要望書 IUCN視察で

- ・10月8日_八重山毎日新聞:IUCNとの意見交換 やまねこパトロールが要望書
 - ・10月14日_沖縄タイムス:意見交換会へ住民参加要望 NPO法人、環境省に
 - ・10月14日_琉球新報:自然遺産推薦地拡大求め意見書 トラ・ゾウ保護基金
 - ・10月20日_沖縄タイムス:登録で観光客急増懸念 世界自然遺産調査 西表住民 専門家と議論
 - ・10月21日_八重山日報:観光規制の対策急務 町、3月に条例上程へ
 - ・10月22日_琉球新報:観光施設で歓迎と懸念 西表 世界遺産登録で検討
- 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金西表島支部やまねこパトロールが情報公開請求で入手した検討会資料によると、島西部・浦内川河口にヤマネコ観察シェルター、ミュージアムショップなどを備えた「西表フィールドミュージアム(仮称)」を建設するなど、複数の施設整備が検討されている。拠点整備構想について、西表島でホテルを運営する竹富町観光協会の上角直之会長は「本物の自然をきちんと理解してもらいたいので、整備には大いに賛成したい」と歓迎する。一方、やまねこパトロールの高山雄介事務局長は、整備予定地がイリオモテヤマネコの主要な生息地だと指摘し「施設整備により大勢の観光客が出入りすることで、ヤマネコの生育環境の攪乱につながる恐れがある」と懸念を示す。住民に構想が公表されていないとして「拠点整備は観光客の流れを形づくるもので、住民生活にも影響する。議論の内容を広く公開してほしい」と求めた。
- ・11月4日_朝日新聞:今さら聞けない+ (PLUS) / 世界自然遺産 貴重な地形や動植物の宝庫
 - ・12月4日_東京新聞/中日新聞:象牙規制「日本に抜け穴」ワシントン条約委で批判 登録制度 違法取引防げず
- 先月、「日本の国内象牙市場を閉鎖すべき、これだけの理由」と題した250頁の報告書を発表した坂元雅行弁護士(NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」事務局)は、登録キャンペーンについて「象牙業者の在庫を潤そうというもくろみだ」と酷評。象牙の登録機関が、申請された「象牙」の現物検査を行えず、追跡調査に必要な個体識別やマーキングもされない現状に触れ、「違法な象牙を不法な手段によって虚偽登録し、合法市場に流入させるロンダリング(洗浄)を助長している」との見方を示した。
- ・12月5日_朝日新聞:eco活プラス/ 動物の事故死 防ぐには 抜け道整備 標識に注意し運転
 - ・12月23日_朝日新聞:象牙密輸出、日本で横行 中国向け、現地は3~4倍の高値



イベント
カレンダー

4月7日(土) 10:00-13:00

白梅福祉作業所さくらまつり
(世田谷区松原6丁目43番17号 ソウ福祉ビル)

4月21日(土)22日(日)

アースデイ東京2018
(東京・代々木公園)

4月15日(日)

「第3回イリオモテヤマネコの日」記念シンポジウム
(西表島・会場未定)

6月2日(土) 18:00-20:00

JTFFをささえるチャリティー・パーティー 2018
(東京・ビヤステーション恵比寿)

JTFFの活動をご支援ください!

JTFFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

★年間サポーター費・随時寄付のお支払方法

ゆうちょ銀行
口座番号) 00170-7-355897 加入者名) トラ・ゾウ保護基金

ホームページからクレジットカードでもご寄付いただけます。
<http://www.jtff.jp>

トラ・ゾウ保護基金へのご寄附は、
確定申告で納められた所得税の控除(還付)を申告できます

2017年1月1日以降2017年12月31日の間にいただいた年間サポート費、随時寄附の2,000円を超える部分につきましては、平成29年分の所得税の控除申告ができます。ぜひご活用ください。

確定申告の受付は2018年(平成30年)3月15日(木)まで。お忘れなく!